（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2297200376		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームえがおの里浜北（いちご・北側、もも・南側　2ユニット合同）		
所在地	静岡県浜松市浜北区中条１１０２番地		
自己評価作成日	平成27年7月23日	評価結果市町村受理日	平成27年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200376-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町８番地１　柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成27年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人の基本理念を念頭に、「その人がその人らしく」を大切に、『個を尊重した介護』を目指しています。
地域との関わりも大切にし、散歩などの際、地域の方々とのコミュニケーションを図ったり、地域住民によるオカリナ演奏会を定期的に開催するなど、交流を図っています。敷地内には、ホームの畑があり、季節ごとの野菜を育て、入居者の方々にもお手伝いをして頂きながら、新鮮な野菜の収穫を楽しんでいます。その他、季節ごとのイベントやドライブ、外食なども定期的に行うことで、季節を楽しみながら生活して頂ける様取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

建物は天井高もあり、非常に明るく開放的な造りとなっています。特に2階にはスポーツができるほどの余剰スペースがあるため（有事には100名余が身を寄せることが可能）、今後は学童保育や避難場所等地域ニーズに貢献できるよう検討を進めています。ここ数年の職員ならびに管理者の入れ替えにより、運営推進会議をはじめ取組み全般に停滞感は残るものの、新たな職員の年齢が上がったこともあり、寄り添う温かみのあるケアを下支えに笑いの絶えない暮らしを利用者は続けることができています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の基本理念を玄関・事務所に掲示し、朝礼時に唱和している。社内研修では全スタッフに基本理念の意識づけができるよう、教育を行っている。	職員が集まれば唱和することが習慣になっています。ユニット毎の利用者と職員の共同制作により、入口には理念が大きく掲げられ、訪問の家族やボランティアの目にも常に触れられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩時のコミュニケーションや地域住民によるオカリナ演奏会を定期的に開催し交流を深めている。地域の行事に参加したり、事業所の行事にも来て頂いている。	新しい住人に寛容な地域であり、特に自治会は協力的でお祭りには屋台や子どもたちが立ち寄ってくれます。敷地内の樹木に群がるセミを目当てにちびっ子が集まる様子からも円滑な関係であると受けとめられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年2月、地域包括支援センター主催の「認知症のプロに学ぶ」に参加させて頂く。他の事業所との交流と、認知症の方を家族に持ち、さまざまな悩みを抱えている方々の話を傾聴し、支援方法等を話し合う機会ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者交代により、運営推進会議が少し途切れていたが、開催することができた。今後も以前のように継続的に開催し、運営状況の報告や議案を提示し情報交換に努めたい。	昨年度を反省し、本年は隔月開催できるよう準備しています。これまでも終了時間を超える熱の入った話し合いでしたが、本年は新メンバーとして保健師が加わり、さらに濃い内容となることが期待されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に運営推進会議の案内を届けると、2ヶ月1回の開催が出来るよう激励の言葉と、特別な事がない限り出席して下さる旨を頂く。介護相談員も毎月来訪し、入居者の話に耳を傾けて下さっている。	地域ニーズに呼応して中高年の採用を積極的におこない、最近では71歳の入職がありました。行政担当者との関係は良好で、何かと気にかけてくれるため相談しやすく、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」を玄関に掲示、スタッフも意識して介護にあたっている。いかに拘束以外の方法で危険を回避できるか、ミーティング等で改善策を話しあっている。	家族のような気持ちになっているためか、転倒の危険性がある人の夜間帯は職員の目が届く範囲で休んでもらうということもあります。スピーチロックは無意識で発してしまうことがあるため、職員間で注意し合うとともに、毎月の職員会議で議題に挙げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会社全体の介護研修を開催し、虐待に値する行為に対し、正しい知識を持ち、教育を行っている。お互いに注意喚起できる環境を作り、入居者様の尊厳を尊重するような介護の実践を目指している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティングを通じ、権利擁護に関する理解を深めている。また、ご家族からの相談に応じ、必要性の可否について検討の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にともなう不安や疑問の解消に努め、契約・解約・改定等、利用者様やご家族様の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い、理解と納得をして頂いてから契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、入居者様・ご家族・職員で会話をする機会を設けており、そこで得られた情報を日々の介護に反映できるよう努めている。	月に1度身体状態などを記し家族に書面報告しています。またトピックやイベントをイラスト入りで送付してもいて、その色付けは利用者がおこなうこともあり、一つの交流の機会となっています。	職員交替が続くと不安に感じる家族もいるため、交替時には挨拶をはじめ積極的に家族へ声がけすることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を個別面談、ミーティング、朝礼時に個々に管理者にあげるようにしている。	近年職員年齢が上がっていますが、その分人生経験も豊富でリレーションに秀でており、気づきがあれば管理者に直接進言できています。意見から回転いすと風呂用ベルトを購入しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定により、資格を取得した職員に対して資格手当を支給したり、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握した上で、毎年昇給を行うなど、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりの実際と力量を把握するように努め、介護技術の向上のための介護マニュアルを作成し、研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	聖隷クリストファー大学内に事務局をおくえんしゅう介護福祉サービス研究会に参加し、同業者や静岡県福祉長寿局などとの意見交換を行った。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の生活歴や病気の既往歴などの情報をもとに入居者の話しに傾聴し心身の状態から出来る事、出来ない事を判断している。お話しを聞きながら信頼関係を作り、他者との様子も確認し新しい環境に慣れていただく様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際などに入居者の生活の様子を伝えている。ご家族の希望や相談を親身に傾聴し、信頼関係を築いている。入居者様、ご家族が安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望と状況を判断し、入居者様の状態を見極めたうえで、必要なサービスの検討・実施を行うよう努めている。入居者にとってどうあるべきかを、ご家族と相談の上、必要であれば、外部のサービス利用ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活歴を活かし、グループホームでの生活が本人のペースに近ずけるように関わっている。入居者の方と職員が、共に暮らす家族のように一緒に談笑したり、洗濯物をたたんだりして水平な目線で接し、関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会の時などに、一緒に過ごせる時間を大切にしている。入居者に変化が見られる時は、電話連絡し、説明している。面会の際は入居者の近々の様子を伝えている。家族が安心できるよう配慮し、共に支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流が継続できるよう配慮し、面会などは自由にされている。例えば、法事などの家の行事等、帰宅の際は、家族と連絡を取り合い調整している。今までの人間関係を大切にできるよう支援している。	懐かしい場所や食べ物、行きつけの手芸品店には個別対応をおこなっており、極力願いを叶えたいと努めていることが覗えます。馴染みの店では販売員との微笑ましいやりとりに職員が癒されることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、見守っている。なじめない方には孤立せぬよう、座席を変えたり、職員がカンファレンスで話し合い、対応している。トラブルにならぬように職員が間に入り関わりを見守っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでのケアが困難になり、その後入院されてからも連絡が取れている方もいる。契約が終了しても、これまでの関係を大切にし、必要に応じて相談等を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりにあった日中のすごし方を尊重しながら、また、共同生活で他の利用者様とのコミュニケーションをとれるよう、職員が橋渡しをし、良い関係が築けるよう支援している。	食後のゆったりした時間帯には何気なく寄り添うことで発語を拾い、思いや意向を把握しています。ぬり絵を傍に置いたところ集中して塗るようになったり、懐かしのメロディを聞いて突然歌いだした例もあります。	新しい職員もいるため、アセスメントの共有化と報連相の仕組みづくりについて改めて協議することを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会にいらしたご家族様との雑談の中から、入居者の生活歴、趣味などの情報を得ている。また、本人との会話からも、何が楽しみかを考え、一人ひとりにあったケアを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや伝達ノートなどを活用し、職員間の情報を共有している。日々の心身の変化などについても、その原因やケアの方法を話し合い、ご本人の有する力を引き出せるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体機能の低下に伴い、変化があった場合、医師、看護師に報告・相談し、その都度ご家族にも報告している。また職員間で統一したケアができるよう努めている。	ケアマネージャーが中心となって作成するプランは、見直しを6ヶ月としつつも、毎月の全体会議や担当者会議で議題に乗せ、新しい情報が出ています。また体調に変化のあるときも話し合うようにしています。	家族アンケートではほぼ半数が担当者会議に参画できていない、または参加していることを認識していないことが推量されますので、是正を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などについては、個人記録を記入し、職員間で共有している。しかしながら、人員不足などにより、カンファレンスの機会が減少し、介護計画の見直しについては不安がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度変化する入居者、ご家族のニーズに耳を傾け、相談にのり、支援をしている。また、ご家族に負担が掛からないよう、介護用品など施設のものを貸し出すようにし、柔軟なサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員からのご紹介により、ボランティアの慰問等を依頼している。今後は新たな慰問を探したり、バリアフリー対応の場所に外出するなどの機会を設けたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及びご家族の希望を大切にし、基本的には馴染みのかかりつけ医での受診を勧めている。また、家族対応が困難な利用者様については、施設提携医による月2回の往診、緊急時には24時間での支援体制を整えている。	24時間対応で往診もあるため、殆どが協力医を利用しており、看護師の訪問が週1度あることから早めに状況への指示を仰げています。かかりつけ医受診は家族にお願いしているので共有を密にしています。	協力医の往診ならびに経過や投薬の内容について、家族への説明機会をつくることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師が来訪され健康管理を行っている。スタッフは日々の体調の変化等を看護師に報告・相談し医学的視点から指導をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院前の情報を医療機関に提供し、入院中もご家族・職員・病院関係者と連携することで、経過を把握し、退院後の生活に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応について、入居者の要望に応じて支援できるよう、取り組みの方針を共有している。利用契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明すると共に、ご家族・医師を交えて話し合いを行っている。	重度化への対応方針を契約時に家族に説明し、同意書を交わしています。開所から2名をお見送りしていますが、職員の精神的負担は否めず、終末期ケアの予定は特段ありませんが職員教育を順次おこなう予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を通じ、救急対応の知識の習得を行い、急変時の対応が的確に出来る様にしている。提携医は24時間連絡が取れる体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回、消防署の指導のもと、避難訓練を行っている。地域の防災訓練において、ホームの入居者の避難・救助のお手伝いを取り入れてもらえるようになり、地域との協力体制を築いている。	100名余の収容スペースを持つことから避難場所として地域にアピールしています。自治会長が学校側に働きかけて下さったおかげで、地域の防災訓練では中学生が利用者の安全確保に動いてくれたこともあります。	備蓄が現在ペットボトルを1日分程度とのことでした。有事の受入れも表明していることですし、最低3日をめやすに増量されることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の症状により、帰宅願望や落ち着かない等の症状が見られることがあるが、早めに職員が気づき、対応を変えることで、状態が良い方向に向くように対応している。また、声掛けには人格を尊重し十分な配慮を心がけている。	「○○がしたい」と自発的な利用者が大半のため職員からお願いすることは少ないものの、暑さが増す時節に「草取りをしたい」と言われたときは悩んだとのエピソードからは、個々の気持ちに添っていることが覗えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、個々の入居者様の思いを自由に表出して頂けるよう支援している。共同生活の中で、全てを叶えて行く事は困難であるが、説明をし、納得した形で自己選択ができるよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムを尊重している。また自由な生活と体調管理の双方のバランスに留意して支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は自室に鏡を準備されたり、洗面所にて自分で髪を整えている。理美容時は本人の希望を伺い、自分らしいおしゃれができるよう、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は専門業者の管理栄養士が作成した福祉食の材料を取り入れている。高齢者が好まれる食事に配慮している。配膳や後片付けなども出来る限り一緒にできるよう、心がけている。	外部の管理栄養士の手によるメニューで体調を考慮して調理していますが、皆が皆同じではなくその人に合わせてアレンジすることを旨としています。おやつは時節行事も反映させ利用者と一緒に作っています。	「利用者は得意分野で、自分がやらなきゃと張り切って手伝ってくれる」とのことですが、家族アンケートではその情報が見えていないことが確認されました。家族に活動が届くことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を確認し、不足がある場合は摂取できるようにしている。食事は身体状況により、きざみ食やソフト食など、その方に合わせて提供をしている。水分はこまめに摂取できるよう、飲み物の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを習慣とし、無理なく行えるよう、声掛けやその人に合った口腔ケア用品を使って実施している。出来る方には自立支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排泄パターンの把握に努め、排泄チェック表を用い、声掛けの実施を行っている。可能な限り自分で排泄できるよう、プライバシーに配慮しながら支援している。	排泄チェック表を利用して時間や回数の管理をしていますが、一人でトイレに行ける人が多く職員は見守りが中心となっています。おむつ利用2名のうち1名は立位を確認し現在紙パンツで経過観察をおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘時には水分を多めにとってもらったりしている。それでも改善しない場合は、医師から処方されている薬にて、排便の調整をしているが、できるだけ自然排便になるよう、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様が定期的に入浴できるよう支援している。しかし、スタッフ不足の時などは、入浴するしないの有無は職員の都合で決めている面もあり、個々にそった支援が行えない時もある。	お湯は入れ替えをおこなって清潔を保ち、本人の好みの時間と温度に調節するよう心掛けています。職員の立ち位置も検討し、またその日の利用者の感情にも気遣いしてリスクを回避しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンがあるため、日中居室で過ごす時間も大切にしている。夜間不眠の方には、昼間の過ごし方を考え工夫したり、提携医に相談し指導を仰ぎ、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の作用の理解や、どんな症状に対しての薬であるかを理解するよう努めている。服薬によって、症状の変化が見られた場合には、医師又は看護師に症状を伝え、指示を仰ぐよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様にあった作業や、レクリエーション行ってもらえるよう、声掛けをしている。手伝いをしていただく際は、感謝の気持ちを伝えている。入居者様のそれぞれの役割りや、楽しみ事が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	企画等で入居者様が楽しんで頂けるよう、外出の機会を設けている。また、畑があり、苗を植え育てているので職員と一緒に畑の様子を見に行ったり、ホーム外での時間を楽しめるよう努めている。	全体で出かけるのは年2回程度ですが、月1回のドライブには万葉の森や浜北森林公園で花を眺めたりピクニックに興じることもあります。ドライブでは皆で作ったおにぎりを持参したり、和食のレストランで食事を堪能しています。	散歩やドライブを増やすのは難しいと思いますが、時間を決めた外気浴や足腰に負荷を与える体操の実践を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からおこずかいを預かり、管理者が管理をしている。必要な物品の購入時には、入居者、ご家族に希望を伺い、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から希望があれば、ご家族に電話をし連絡をとれるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの床や手すりは、毎日薬液により水拭きを行い清潔の保持につとめている。お誕生日には色紙に言葉をそえて贈っている。季節がわかるように掲示物を作成し、明るい空間作りに努めている。	利用者が活けた花が共用空間の季節感を醸し出し、大型ソファーではテレビを観覧しつつ会話がもてるスペースが取られ、天井高も合わせゆったりした空気が流れています。テーブルも作業スペースを広く取ることができ、クラフト制作で賑わう日もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーは自由に移動できるようにしている。各ユニットを行ったり来たり、車椅子やシルバーカーでも移動しやすくなっている。一人でテレビを観たり、気の合う同士でおしゃべりしたり、思い思いに過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に可能な限り、利用者の使い慣れた物や、馴染みの物を持ってきて頂くよう、ご家族にお願いしている。居室は基本的には、それぞれ自由な配置、飾りつけなどを行って頂いている。	大きな開き戸のドアの向こうには採光十分で、窓枠の風景が目に飛び込んできます。備え付けのクローゼットに加え大きな箪笥を持ち込む人もいて、ほかには畳、冷蔵庫、鏡台もあり、自宅を彷彿とさせています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮しながら、声掛けや介助を行い、危険を回避できるようにしている。車椅子やシルバーカーの移動は自走または介助にて自由に動いて頂いているが、過度な介護にならないように心がけている。		